

諸 行 動・諸会議名 第 89 回かながわ中央メーデー

開 催 日・実 施 日 2018 年 4 月 28 日（土） 10：00～12：30

開 催 場 所・実 施 場 所 横浜「臨港パーク」

参 加 者 運輸労連神奈川加盟各単組 総勢 200 名

第 89 回かながわ中央メーデーは、8,600 人の参加により横浜・臨港パークで開催された。式典では、主催者挨拶として柏木実行委員長（連合神奈川会長）は、「メーデーは、1 日 14 時間労働が当たり前だった当時、『第 1 の 8 時間は仕事のために、第 2 の 8 時間は休息のために、そして、残りの 8 時間は、おれたちの好きなことのために』と訴えたのが始まりといわれている。労働運動の歴史は、いわゆるまっとうな暮らしを求めた歴史でもあることを共通理解としたい。現在、「働き方改革」が進行中であり、



36 協定の締結の意味が今まで以上に重要になってくる。一方で、企画型裁量労働の範囲拡大つ

いては、杜撰なデータで建議してきたことが明らかになり、盛り込まれないこととなったが、まだ高度プロフェッショナル制度が残っている。また、春闘課題については、昨今は人手不足も賃金や採用に良い作用をしている。国内の消費を高めるためにも、賃金の引き上げは重要な取り組みである。その取り組みを全体化していきたい！我が国は、様々な危機のど真ん中にある。私たち働く者・生活者はそこを看過するわけにはいかない。すべての働く者の連帯で、「クラシノソコアゲ」とそれを通じて未来への責任を果たさなければならない」と働き方、賃金、民主主義、3 点についてあいさつした。



運輸労連神奈川加盟単組の参

加人数は、約 200 名と例年以上に大規模となった。今回はメーデー実行委員並びに会場班 2 名、献血者 7 名、またタオル 1 本運動、初の試みとなるフードライブにも各単組からご協力を頂き、最後に今期作成した「このままでは物流が止まる」の横断幕を掲げ、集合写真の撮影を行い、第 89 回かながわ中央メーデーが終了した。

